

栃木放送平成 26 年度第 1 回 4 月期定例番組審議会議事録

1.開催の日時 平成 26 年 4 月 24 日(木)午前 11 時

2.開催の場所 栃木放送本社会議室

3.委員の出席 委員総数 9 名  
出席委員 8 名  
欠席委員 1 名

出席委員名	委員 長	増 田 仲 夫
	委 員	太 田 照 男
	委 員	小 島 俊 一
	委 員	岩 村 由 紀 乃
	委 員	竹 内 明 子
	委 員	高 野 俊 浩
	委 員	中 里 勝 夫
	委 員	小 林 一 巳
局側出席者氏名	代表取締役社長	吉 澤 文 夫
	常務取締役	竹 澤 一 夫
	報道制作局長	高 瀬 一 也
	東京支社長	川 島 育 郎

4 議 題

( 1 ) 「開局 50 周年 ラジオスペシャル  
真夜中のビタースイートサンバ」について

( 2 ) その他

5 議事内容

( 1 ) 「開局 50 周年 ラジオスペシャル  
真夜中のビタースイートサンバ」について

試聴番組：平成 26 年 3 月 23 日(日) 10:00～放送

真夜中のビタースイートサンバをあらかじめ試聴。

議題説明：東京支社長 川島育郎が番組概要について説明。

次に審議に入る。

各委員からは、

高崎一郎は全体的にアイデアマンの印象を受けた。「皆さん」と言わず、ターゲットを絞ったのが特に印象的。今のビジネスや人間関係にも通じるものがあると思う。1時間は長いと思ったが、聞きはじめたらあっという間だった。

年代的に高崎一郎は知らなかったが、衝撃的で感激した。高崎一郎という人を知ることができてよかった。彼の生き方がわかるようなインタビューで、すごく伝わった。

内容はよかったが、50周年との関連性がわからなかった。高崎一郎の人物像を浮かび上がらせていてよかった。

高崎の言葉の中の「特色を出せ」というのは地方局にも通じる話ではないかと思いながら聞いた。

ターゲットを絞っていたのはよかった。もっと番組の宣伝をしてもよかったと思う。

完成度が高かったと思う。オリジナルの番組だと思わなかった。高崎一郎の番組を見たり聞いたりしたことはなかったが、非常によかった。彼が時流を捉えてやってきたことがよくわかった。当時のことが蘇った。50周年記念として意義のあることだと思った。

新鮮だった。個人に呼び掛ける姿勢、送り手としてではなく、リスナーの立場を常に心がけていたことがわかった。今の時代に相通じるものがあると思う。

楽しく聞いた。選曲もよかった。懐かしい名前も出てきて、真剣に聞いた。

50周年はもう過去。これからの50年のためにも、高崎の心意気を汲んで、どんどん挑戦してほしい。

などの意見が出された。

当社としては今後の番組作りに取り組んでいきたい旨を説明した。

## (2) その他

平成26年度第2回5月期以降の審議会を毎月第2木曜日に開催することを決めて閉会した。

以上